

はこいし 箱石こうきりこ

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 箱石
- ◇ 保持団体 箱石郷土芸能保存会

「箱石こうきりこ」の起源は、加賀の医師が箱石の地に長く逗留し、京都の祇園祭に出る踊り「こうきりこ」を伝えたものといわれています。風流踊りの一種で、コキリコ（小切木）とは2本の短い木の棒を打ち鳴らす楽器のことで、中世から近世初頭にか

けて芸能者が大道でコキリコを打って独特の歌謡を歌ったものです。今では富山県の「こきりこ」などにその面影を残しているといわれています。

かつては嫁入り前の女性が踊るものとされていました。踊り子の額にヒタイアテという山型の飾りをつけ、コキリコを打ち鳴らしながら踊ります。昔は、盆の14日に太夫の家の庭で踊ってから好心寺、稲荷神社で踊り、その後民家を廻っておどりました。

演目は、庭廻、初庭、中踊、引羽の4段で構成され、少女たちの踊りや唄が優美で、岩手県内では唯一、箱石にだけ伝わる芸能です。

